

YOSHIDA HIROSHI

Commemorating the 70th Anniversary of His Death

美が、

摺り重なる

没後70年

吉田博展

2021.

1.26 | 火 | - 3.28 | 日 |

展覧会公式HP



BEHOLD, BEHOLD.
THE FUTURE IS ART
TokyoTokyo
FESTIVAL

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館、毎日新聞社、
日本経済新聞社 協賛：トヨタ自動車、ニューカラー写真印刷
開室時間：9:30～17:30 休室日：月曜日 ※会期中、一部展示替えがあります。
お問合せ：03-5777-8600（ハローダイヤル）
展覧会公式HP：<https://yoshida-exhn.jp>
チケット情報は展覧会公式HPにて詳細が決まり次第ご案内します。
新型コロナウイルス感染症対策の為、開催情報は変更の可能性があります。
最新情報を展覧会公式HPにてご確認ください。

《日本アルプス十二題 龍山の朝》（部分） 大正15（1926）年



東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

東京
上野公園



《瀬戸内海集 光る海》大正15(1926)年



《富士拾景 朝日》大正15(1926)年



《上野公園》昭和13(1938)年



《陽明門》昭和12(1937)年



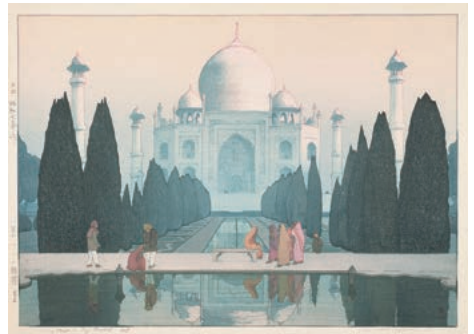
《瀬流》昭和3(1928)年



《米国シリーズ エル・キャピタン》
大正14(1925)年



《印度と東南アジア フワテブルシクリ》
昭和6(1931)年



《印度と東南アジア タジマールの朝霧 第五》昭和7(1932)年

明治、大正、昭和にかけて風景画の第一人者として活躍した吉田博(1876-1950)。福岡県久留米市に生まれた吉田は、若き日から洋画に取り組み、幾度もの海外体験を通じて東西の芸術に触れながら、自然に向き合った厳しい写実による質の高い絵画表現を確立しました。

油彩、水彩の分野で才能を発揮した吉田は、画業後期にはじめて木版画に挑戦し、新たな境地を切り開きます。深山幽谷に分け入り自ら体得した自然観と、欧米の専門家をも驚嘆させた高い技術をもって、水の流れや光の移ろいを繊細に描き出しました。

画家の没後70年という節目に開催する本展は、初期から晩年までの木版画を一堂に集めるとともに、版木や写生帖をあわせて展示し、西洋の写実的な表現と日本の伝統的な版画技法の統合を目指した吉田博の木版画の全容を紹介します。

■ 世界を魅了した木版画

世界各国を旅し、雄大な自然をとらえた吉田博のみずみずしい木版画は、アメリカをはじめ海外で早くから紹介され、現在も高い評価を誇ります。故ダイアナ元英国皇太子妃や精神科医フロイトに愛されたことでも知られています。

■ 版画技法のあくなき探究、色彩表現の独創性

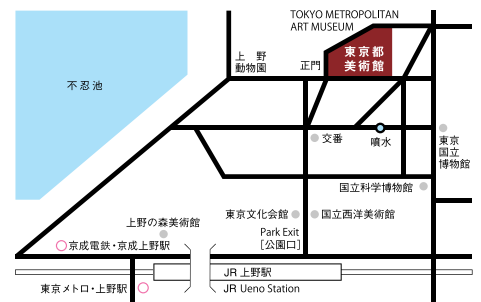
『帆船』シリーズにみられるように、吉田博は同じ版木を用い、摺色を替えることで、刻々と変化する大気や光を表わしました。複雑な色彩表現のために重ねた摺数の平均は30数回に及び、巨大な版木を用いた特大版を制作するなど、あくなき探究心をもって、独創的な木版画を生み出しました。

■ 旅と風景

生涯にわたり風景を描き続けた吉田博。その作品は、画家自らが現地に赴き早描きした写生をもとに制作されました。アメリカ、ヨーロッパ、アジアの自然風景から、富士や日本アルプスといった日本の山岳、穏やかな瀬戸内海など、世界中の風景の制作を夢見た吉田博の版画作品は画家の旅の軌跡を示すとともに、私たちが異なる世界へといざなってくれることでしょう。



《瀬戸内海集 帆船 朝》大正15(1926)年



【アクセス】

〒110-0007 東京都台東区上野公園 8-36

JR上野駅「公園口」より徒歩7分

東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅「7番出口」より徒歩10分

京成電鉄京成上野駅より徒歩10分

※当館には駐車場はございませんので、車のご来館の際はご注意ください。